

国立循環器病研究センターの現状と展望

最先端の、その先へ



独立行政法人

国立循環器病研究センター

National Cerebral and Cardiovascular Center



1. 循環器病対策の重要性

I. 循環器病を取り巻く深刻な現状

1. 医療費 (次頁図1) **1位 循環器疾患、2位 がん**
2. 入院受療率 (次頁図2) **1位 精神疾患、2位 循環器疾患**
3. 寝たきりの原因 (次頁図3) **1位 脳卒中、2位 高齢による衰弱**

II. 持続可能社会に対する脅威としての循環器病

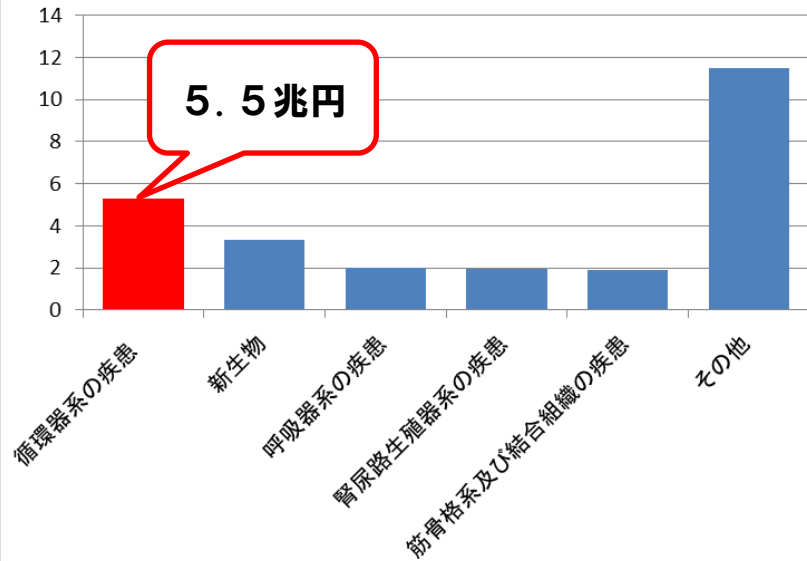
1. 10～15年後に75歳以上が激増 : 団塊の世代の超高齢化
2. 平均寿命と健康寿命の差(次頁図4): 約10年(介護必要期間) × 高齢者数 = 社会負担

III. 対策: 循環器病の予防と治療による健康寿命の延伸

1. 教育・予防・急性期医療・二次予防・社会復帰のシームレスな展開
2. 青壮年期における社会からの脱落予防
3. 健康寿命の延伸による介護必要期間の短縮

図1

医療費(兆円)

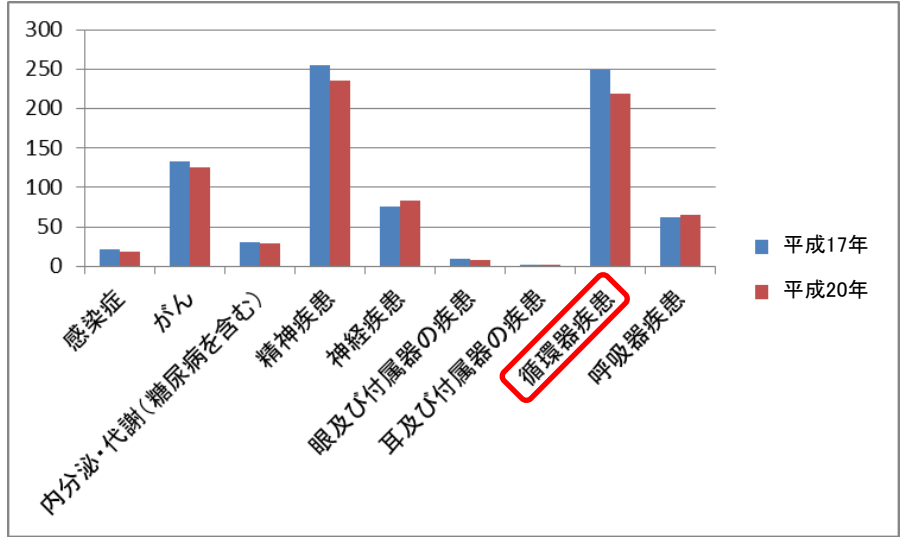


平成21年度国民医療費の概況より

図2

入院受療率

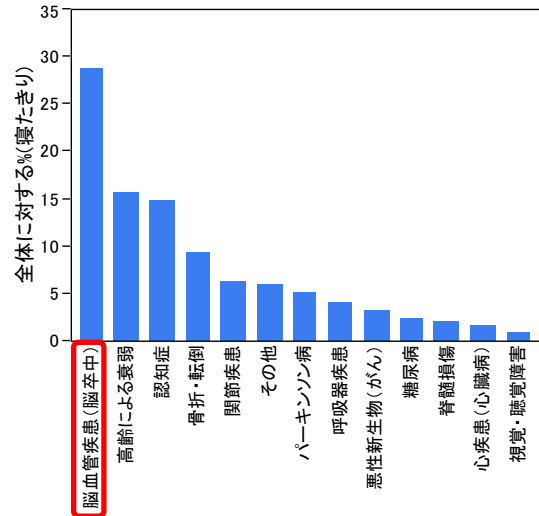
人/10万人・年



平成20年厚労省患者調査の概況より

図3

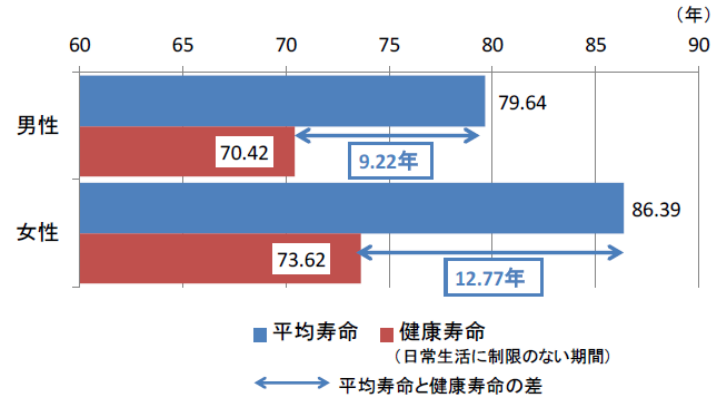
介護が必要となった主な原因



平成22年介護が必要となった主な原因(人/10万人・年)
平成22年国民生活基礎調査より

図4

平均寿命と健康寿命の差、すなわち介護を要する期間



資料：平均寿命(平成22年)は厚生労働省「平成22年簡易生命表」
健康寿命(平成22年)は厚生労働科学研究費補助金「健康寿命における将来予測と生活習慣病対策の費用対効果に関する研究」

2. ナショナルセンターとしての国立循環病研究センターの特徴

I. 高度専門医療機関としての病院と研究開発法人としての課題解決型研究所の併設

医学部と附属病院のある大学との違い

II. 心臓血管と脳血管を共に対象とする研究医療機関

世界にほとんど例がない。併設の意義は大きい。

III. 循環器病の特徴

時間との戦い: あるべき救急医療と先端医療のモデル化と普及

ありふれた疾患: 国民の健康という視点での戦略的医療推進と提言および啓発活動

最先端医療と特殊疾患: 心臓移植、心臓病を有する母体からの出産(世界第3位)

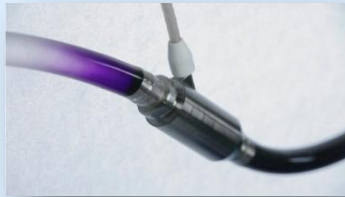
IV. イノベーション拠点として

研究開発基盤センターの設置による産官学連携の推進

スーパー特区および早期探索的臨床研究拠点としてイノベーション推進



3. 国立循環器病研究センターの実績



■ 心臓移植・人工心臓開発の先駆的・中心的役割

- ・我が国の心臓移植実績132例中49例の実施(H24.7.1現在 国内最多)
- ・世界最小の補助人工心臓システムの開発

■ 脳卒中医療の先導的役割

- ・国内初のSCU設置、その有用性の証明と普及
- ・血栓溶解療法(t-PA)の導入と普及
- ・脳血管障害の外科治療の先導的業績と普及

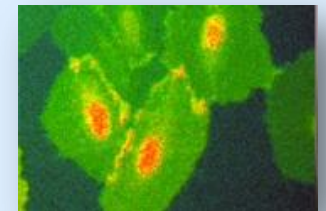


■ 心臓血管手術における治療法の改良・開発

- ・低侵襲治療の推進(ロボット手術、ハイブリット手術室)
- ・植込型補助人工心臓治療の開始(H23年度9例、4例は在宅へ)

■ 世界が注目する新規生理活性ペプチドの発見と臨床応用

- ・グレリン、アドレノメデュリン、ANP、BNPの展開



■ 人材育成の成果

- ・全国の主要大学教授として111名
- ・履修者数:レジデント1345名、専門修練医312名